⑺	小田原工場	巻替室	巻替室	建物 構築物	神奈川県小田原市酒匂	—	平成22年７月	164,056,182円	3円	164,056,179円
		銀行券番号校正装置	銀行券製造設備	機械装置		—	平成23年１月	5,851,968円	1円	5,851,967円
⑻	静岡工場	警備詰所	警備詰所	建物	静岡県静岡市駿河区国吉田	—	平成23年１月	1,277円	2円	1,275円
		銀行券封包機	銀行券製造設備	機械装置			平成22年９月	10,416,760円	1円	10,416,759円
		銀行券番号校正装置					平成23年１月	6,184,661円	1円	6,184,660円
⑼	彦根工場	築庭外	築庭外	構築物	滋賀県彦根市東沼波	—	平成22年６月	7,917円	2円	7,915円
		自動封包機	銀行券製造設備	機械装置			平成22年７月	11,229,100円	1円	11,229,099円

㈱　印刷機能の移転を予定しておりますが、具体的な移転の時期は未定であります。

⑴　池田分室の事務所は、昭和27年の建築であり、老朽化しているため、平成22年11月に建替えを予定していることから、減損の兆候が認められます。

当該施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、解体撤去を予定しているため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額としております。

⑵　大手町第２敷地は、平成22年12月に処分を予定しているため、減損の兆候が認められます。

当該土地については、不動産鑑定評価額を回収可能サービス価額とし、減損額を算出することを予定しております。

当該敷地の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、将来の利用計画が想定されないため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑶　久我山運動場は、平成23年３月に利用を廃止し、処分を予定しているため、減損の兆候が認められます。

当該土地については、不動産鑑定評価額を回収可能サービス価額とし、減損額を算出することを予定しております。

当該施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、将来の利用計画が想定されないため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑷　市ヶ谷センターは、平成23年３月に利用を廃止し、処分を予定しているため、減損の兆候が認められます。

当該土地については、不動産鑑定評価額を回収可能サービス価額とし、減損額を算出することを予定しております。

それぞれの施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、将来の利用計画が想定されないため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑸　虎の門工場の工場外は、都内工場の再編により、印刷機能を滝野川工場へ移転することを予定しているため、減損の兆候が認められます。

当該施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、滝野川工場への移転の時期が未定のため、記載しておりません。なお、使用しなくなる日における帳簿価額の見込み額については、平成21年度末の帳簿価額を記載しております。

虎の門工場の官報情報検索システム用サーバは、設備更新のため、平成22年８月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

当該機器の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、解体撤去を予定しているため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑹　滝野川工場の銀行券番号校正装置は、設備更新のため、平成23年１月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

当該装置の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、解体撤去を予定しているため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑺　小田原工場の巻替室は、小田原工場の製紙部門における作業の効率化及び省力化を図るため、平成22年７月に仕上棟への建替えを予定していることから、減損の兆候が認められます。

小田原工場の銀行券番号校正装置は、設備更新のため、平成23年１月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

それぞれの施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、解体撤去を予定しているため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑻　静岡工場の警備詰所は、昭和39年の建築であり、老朽化しているため、平成23年１月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

静岡工場の銀行券封包機及び銀行券番号校正装置は、設備更新のため、平成22年９月及び平成23年１月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

それぞれの施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、解体撤去を予定しているため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

⑼　彦根工場の築庭外は、工場の敷地整備のため、平成22年６月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

彦根工場の自動封包機は、設備更新のため、平成22年７月に除却を予定していることから、減損の兆候が認められます。

それぞれの施設の使用しなくなる日における回収可能サービス価額及び減損額の見込額については、解体撤去を予定しているため「備忘価額１円」とし、帳簿価額との差額を減損額の見込み額として記載しております。

Ⅶ　金融商品の時価等

１　金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については短期的な預金及び長期的な公共債等に限定しております。

売掛金及び未収金の未収債権に係るリスクに対して、国立印刷局会計細則の規定に基づき、債権ごとに期日管理を行うことにより対応しております。

また、投資有価証券は、独立行政法人通則法第47条の規定等に基づき公共債のみを保有しており株式等は保有しておりません。